



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 334 号

(創刊 1988.12.14)

2017.07.02.

事業者との質問・回答会議

6月15日(木)午後2時より、朝日平和台自治会館にて事業者との質問・回答会議が開催され、事業者から11名、住民から12名の参加があった。

連協は事前に質問内容を文書で示しており、更に文書での回答を要請していたが又も事業者はこれを完全に無視し、文書回答は全く示されず、口頭による回答も要領を得ない的外れの回答であり、事業者側の誠意の無さは如何ともし難い状況である。現政府の無責任対応と同様、到底容認できるものではない。

多くの質問は次回へ持ち越され、「行政や事業者とはこんなものなのか!」と改めて思い知らされる会議であった。(事務局)

きれいな空気を! ⑤—公害調停—

今回は、数式が出てくるので、アレルギーがある読者に嫌われない様に“です。ます。”調で記述します。大気汚染の予測において、3次元流体モデルは凹凸の地形に向いていて広く常識的に使用されていることは既に述べました。これに対し、被申請人は、プルーム・パフモデルは簡便で、多くの実績がありだれが計算しても唯一の解が得られるが、3次元モデルは、計算が煩雑で、パラメータなどの使い方で結果が変わってくるので信頼性が乏しい、と主張しています。そして、プルームモデルでも適切にパラメータを決めれば「地形条件を考慮した大気汚染の影響を予測することができる」と強弁しています。

プルームモデルが、簡便であることは確かです。大気汚染物質の排出口を座標の原点(x=0、y=0、z=0)として、風下方向を

x軸、それに直角方向をy軸、高さ方向をz軸とします。排出口から風下方向に距離がxの地点での地表面の汚染物質の濃度は、次の式で表されます。

$$\text{濃度} = \frac{Q}{3.14 \times U \times \sigma_y \times \sigma_z} \exp\left(-\frac{H^2}{2 \times \sigma_z \times \sigma_z}\right)$$

Qは汚染物質の1秒当たりの排出量、Uは風速、Hは排出ガス(煙)の流れの中心の高さです。 σ_y と σ_z は、拡散係数で、xを決めれば図表(パスキル-ギフォード図)から読み取ることができます。 $\exp(a)$ は、2.72のa乗で、これは普通の電卓では計算できません。パソコンのEXCELを使えば計算できます。例えば、EXCELのセルの中に=exp(5)と入れれば、2.72の5乗が計算されて148.88と表示されます。

つまり、汚染物質の排出量、風速、排ガスの高さ、風下距離が決まれば、ちょっとした計算で濃度の計算ができるという事です。こんな簡単な計算式で、どうやって地形条件を考慮できるのでしょうか?これが、申請人の素朴で大きな疑問でした。(つづく、庄戸三丁目・田中克己)

対外活動報告

- 06/01 神奈川県採用委員会審理に対し意見陳述
- 06/07 第42回全国公害総行動デー参加(霞ヶ関デモ行進、国交省要請行動、総決起集会:ニッショウホール)
- 06/15 事業者との質問・回答会議(於:朝日平和台会館)
- 06/22 神奈川県採用委員会の審理に対する意見書の提出

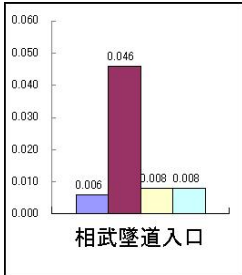
平成29年6月期のNO₂定点測定結果まとまる

連協環境部では各団体参加のもと、毎年6月と12月の2回第一木、金、土曜日を使って栄区内の定められた場所50箇所に二酸化窒素の濃度を測定するカプセルを設置して、所謂定期定点観測を続けております。今回は曇り、時々強風の中での測定でした。

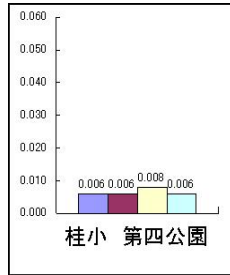
以下に主な測定点の過去4回の測定値とグラフをしめします。

全て環境基準内におさまり、全52か所平均値は0.006と過去最小です。

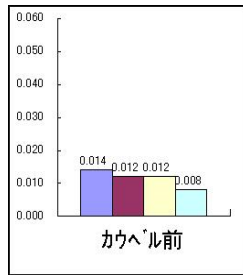
環境基準:0.060ppm (0.020ppmが最初の基準、達成できず、緩和された)



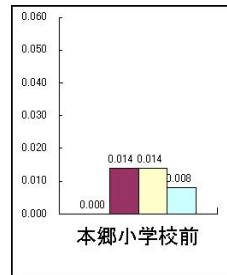
①



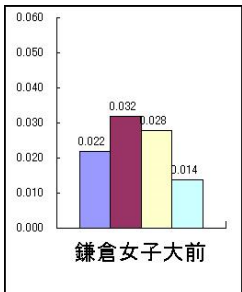
②



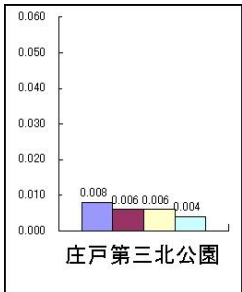
③



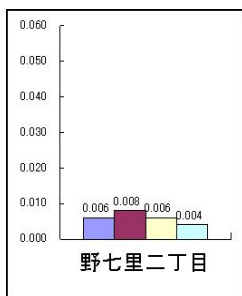
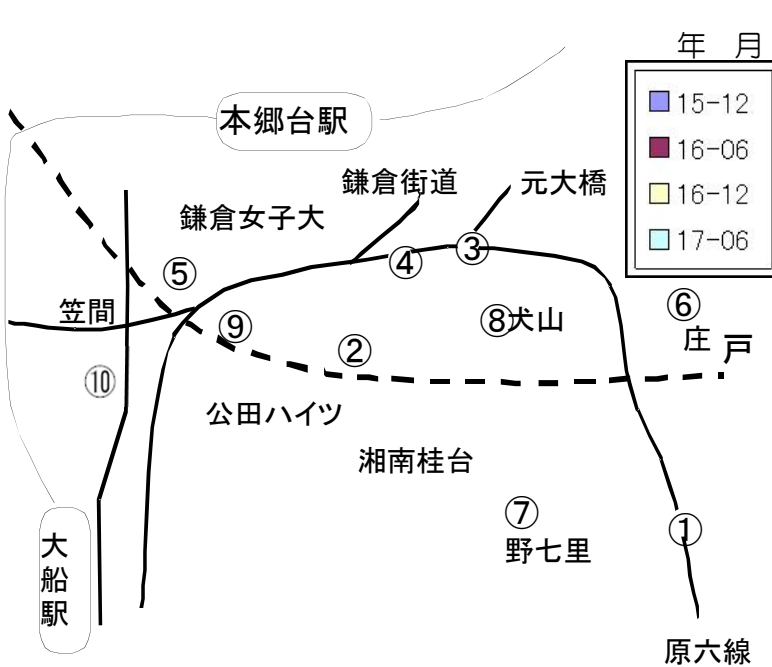
④



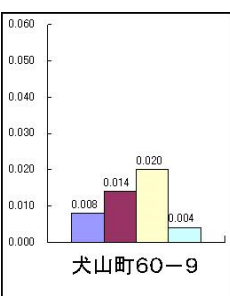
⑤



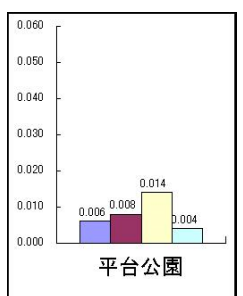
⑥



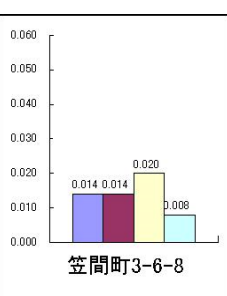
⑦



⑧



⑨



⑩

二酸化窒素測定作業

試薬及び試薬付きろ紙は有限会社筑波総研より取り寄せております。

カプセルの準備(木)。カプセルにろ紙をセットし、ひも付きカップ、記録紙と共に各団体に分けます。測定(木⇒金)。各団体は担当の各ポイントにその番号のカプセルを24時間設置した後回収します。分析(土)。カプセルに試薬を加えると、ろ紙が吸収した二酸化窒素と反応して赤紫色に着色します。その濃度をエコアナライザーNoxで測定します。ppmでデジタル表示されます。